

久 慈川の流域に発達した棚倉では、二万年以上前の旧石器時代から人々が生活を営んでいました。町内各地の遺跡から多数出土した石器や土器などが、太古の暮らしを物語ります。

伝承によれば、町のおこりは伝説の神々が活躍した神話の時代に遡ります。成務天皇(七〇一―七五六)のころ、大和朝廷より白河の国造(地方長官)として赴任した塩伊乃己(しほいのみこ)が、この地に陸水田を拓き、稲作をもたらしました。

飯沼(現在の大字福井字井掘)の地に、豊宇気毗売の神(別名、倉稲魂命)という穀物の神を祀りました。これが、白蛇を祀る神体とする町の鎮守の宇迦神社です。この時に命が建てた種籾を取める「種倉」が、町名の語源ともいわれています。

ところで、福島県には日本武尊を祭神とする神社が多く存在します。尊の東国征伐伝説の北限が、原町市太田の多珂と考えられているため、伝説も数多く伝えられています。

棚倉にある馬場都古和氣神社と八槻都々古別神社も、この地方土着の神の味相高彦根命とともに日本武尊を祀っています。馬場都古和氣神社の縁

起によると、この地を訪れた尊が、表郷村の建鉾山(都々古山)に味相高彦根命を祀ったのが始まりで、後に坂上田村麻呂が、尊を合祀したといわれています。八槻都々古別神社に残る「陸奥風土記」逸文には、尊の東征伝説を福島地名起源に関する説話が記され、その重要性に注目が集まっています。

棚倉のおこりと日本武尊伝説

神話の時代におこり 幾多の戦いを経て 発展してきた 歴史の町、棚倉。



関東と奥州のはざま

関 東と奥州という異なった文化圏の境界に位置する棚倉は、古くから文化や交通の要衝として発展してきましたが、それ故に、戦火の絶えない地でした。

その舞台となったのが赤館です。棚倉城が築かれるまでは、現在の赤館公園がある丘陵地に館が築かれ、この地を治めていました。館の建築時期は未詳ですが、建武年間(三三四―三七七)ごろに赤館伊賀次郎が築城したとも伝えられています。

鎌倉時代以降、棚倉は、

